

前回の WS で得られた北部エリアにおける公共施設の課題と今後の方向性について

＜本日も検討いただきたい内容＞

- ① 資料 3 の公共施設のデータや、前回の議論を踏まえ、改めて北部エリアの公共施設の課題についてどのようなことが言えるか（視点の深堀り、または新しい視点での議論）。
- ② 上記で整理した課題を解決するため、短期的または長期的に、どのような取り組みが必要と考えられるか。（具体的な取り組み、進め方、配慮すべきこと、対象とする施設を絞り込む基準など）

No.	検討項目	第 1 回 WS でのご意見	佐世保市が認識する問題・課題	適正配置・保全基本計画における考え方	今後の方向性に対するアイデア・考え、配慮しなければならないこと	
					短期的に（今後 1 0 年）	長期的に（今後 2 0 年）
1	・ 全体的な適正配置の検討の方向性	〔住民の声を反映させながら取り組むことが重要である〕 施設の量ではなく、使われ方や重要度など、質を重視する必要性があると感じている。	・ 高度経済成長期以降に一斉に建設した施設が一気に老朽化を迎え、多額の経費が必要になっています。 ・ 少子高齢化による社会保障関連経費の増大により、全ての施設を維持していく財源を確保することができません。	・ 1 人あたりの保有面積は、旧市と比べると約 2 倍を保有しており、旧市との均衡を図った適正配置を進める必要があります。 ・ 適正に維持できる保有量へ減らします。ただし、単純に『どれを残し、どれを廃止する』だけで考えるのではなく、集約化や複合化、長寿命化などあらゆる手段を活用し、施設の保有量を減らしても、行政サービスの低下は最小限に抑えます。		
2	・ 公共施設の老朽化対策	〔利用者にとっての使いやすさをふまえた複合化が必要〕 老朽化している施設は、他の施設との統合や建替をすることで、効率的に運営できる可能性がある。ただし、重要な施設なので、利用者にとっての使いやすさ（利便性、機能性）を踏まえて検討するべきだ。公民館・支所は、利用者にとっての使いやすさを踏まえる必要がある。	・ 支所や公民館は利用者数や防災上の観点から重要と考えていますが、以下の課題が生じています。 ○小佐々地区公民館と江迎地区公民館は、外壁が爆裂して落下しており、その他大きなひび割れが多数あります。 ○鹿町支所は、築 5 8 年と老朽化しており、耐震性も満たしていません。（改修費用見込み：9， 1 0 0 万円） ○江迎支所と江迎地区公民館は、築 5 0 年近くなり、老朽化を迎えています。	・ 単独施設として整備された支所・公民館は複合化を原則としつつ、今後も継続して使用する「核施設」と設定し、機能としては現状を維持しますが、一部の支所に見られる開くスペースについては、早期に解消を進めます。 ・ 施設の見直しに際しては、規模（部屋数や床面積等）や設備について市民ニーズや施策としての有効性、効率性を踏まえて一定の基準を設定しつつ、利用状況や地域の特性を生かした配置を検討します。		

No.	ご意見の背景にある課題	第 1 回 WS でのご意見	佐世保市が認識する問題・課題	適正配置・保全基本計画における考え方	今後の方向性に対するアイデア・考え、配慮しなければいけないこと	
					短期的に（今後 1 0 年）	長期的に（今後 2 0 年）
3	・北部エリアの施設のあり方	〔利用状況・習慣・利便性をふまえた集約化を〕 各地域に 1 つずつある施設等、一部の施設には集約の必要性を感じている。しかし、地域によって、他地域の施設の利用について習慣が異なり、減らして欲しくないという思いもある。利用状況等のデータと、住民の習慣、交通の便を踏まえて考えることが重要だ。	・スポーツ施設のほか、北部エリアでは、一つの地域に二つの小学校が配置されているところがありますが、他のエリアの類似する地域（宮、三川内、柚木、宇久）では、小学校は、各一つずつです。 ・住民 1 人あたりの延床面積は、市の平均 5．2 ㎡に比べ、北部エリアでは、1 0．5 ㎡と約 2 倍の施設が配置されている状況です。	・各地域においては一町完結型の施設配置となっており、機能の重複がみられるスポーツ施設など全市域・広域での利用が可能な用途については、エリアを越えて広域利用を前提とした総量縮減に向けた検討を進めていきます。 ・地域スポーツ施設は、周辺の機能重複や代替の可能性を検証し、地域間のバランスにも考慮しながら、施設の集約化や地域への移管等を検討します。		
4	・スポーツ施設の適正配置の検討	〔使われ方の実態にあった施設のあり方を考えるべき〕 スポーツ施設は子どもだけでなく、一般住民にも利用されている（野球、ソフトボール、ゲートボール等）。スポーツ以外の使い方がされている施設もある。	・野球場は、野球専用施設であり、利用者が、限定され、稼働率が低い状況です。 ・稼働率が著しく低い施設があり、その施設の目的が十分に発揮されていません。 ・利用実態や市民ニーズにあった運用を行うことが必要です。人口減少に伴い、利用者の絶対数に対して規模や面積が過剰となっており過度な財政負担となっています。	・スポーツ施設については、限定された用途での利用ではなく、多用途での利用を可能にすることや新たな管理手法について検討を行います。		
5	・遊休施設の利活用	〔空間や資金を有効に活用することが必要だ〕 利用頻度が少ない施設は、維持管理に費用をかけるよりも、土地や施設を売却する等することで、空間や資金をうまく活用できるのではないか。	・老朽化した遊休資産が多く存在しています。継続的に使用するには、安全性が担保できず危険です。更新や建て替えを行うには、多額の費用が掛かります。 解体する場合も、多額の費用がかかります。 解体しないと危険な場合もあるので、売却してその財源を解体費用に充てることが望まれます。 売却した土地を、民間が活用することにより、新たなサービスや雇用が生まれることも期待されます。	・遊休資産となった土地や施設については、必要性がない限り売却または貸付など民間活用を基本とし、地域住民と協議しながら検討を進めます。		

No.	ご意見の背景にある課題	第 1 回 WS でのご意見	佐世保市が認識する問題・課題	適正配置・保全基本計画における考え方	今後の方向性に対するアイデア・考え、配慮しなければいけないこと	
					短期的に（今後 1 0 年）	長期的に（今後 2 0 年）
6	・学校施設の統廃合について	〔慎重な議論が必要〕 他地域でも統廃合の話は進んでいるようである。しかし、児童数や地理的な状況を踏まえて慎重に議論すべきだ。冷暖房の設備がない等の問題もあり、機能更新が必要な学校もあると考えられる。	・エリア内の人口減少は今後一層顕著となり、児童・生徒数の減少も著しく、すべての小中学校で、各学年 1 クラスにも満たない人数となることが想定されます。	・教育環境の維持向上や安全性の確保は、もちろんのこと、地域にとっては、活動拠点であると同時に災害時の避難施設としての機能も持ち合わせています。今後も少子化が見込まれることから、地域の実情や意見に配慮しながら、学校の集約化や複合化に加えて、部分的な機能の集約化や民間施設の活用など、施設の効率的な活用に向けて幅広い検討を行います。		
7	・学校施設のあり方と活用について	〔住民にとって利用しやすい形を追求すべき〕 学校の体育館やステージ等は、社会体育活動の一環でも子ども達が利用している他、一般住民も利用している。スポーツ施設等の他の施設とのバランスを見て、住民全体にとって利用しやすい形を考える必要がある。	・学校施設の一部の機能を一般開放することによって、機能の集約化がいつそう図れる可能性があります。	・学校体育館は、体育館や公民館体育室において各種大会・行事等で一般市民の体育館が利用できない際の補完的役割として、平日夜間や土曜・日曜日に加えてさらなる有効利用を検討します。		
8	・公共施設の利用料金(受益者負担)について	〔利用料金は値上げがされている〕 合併後、地域間でお互いの施設を利用するようになったが、一方で、利用者が増えて使いにくくなった施設もある。また、合併後に利用料金が上がり、利用を控えるようになった施設もある。	・利用料金だけでは、施設の維持管理経費を賄いきれず、多くは、市民の税金から補っている現状があります。			
9	・避難所配置について	〔安全性を担保した避難所配置を〕 水害や津波等、災害に対する心配が増している。公共施設には、自然災害が起きた際の避難場所としての機能も期待されるが、施設の安全性と、避難しやすさ（距離感）を踏まえて、どこの施設に避難場所としての機能をもたせるか考える必要がある。 〔非常時を想定した施設配置を〕 非常時の使い方等、安全性や防災性という観点から施設を考えることも重要だ。	・実施計画の検討・策定にあたり、本事項は配慮しなければならない重要な事項として整理します。	・風水害、地震、原子力災害などに備えて、学校体育館、運動場、地区公民館、地区公民館体育室、体育施設、公園等を避難場所として指定しています。避難場所に指定されている各施設については、防災機能の確保という一面に留意する必要があります。		